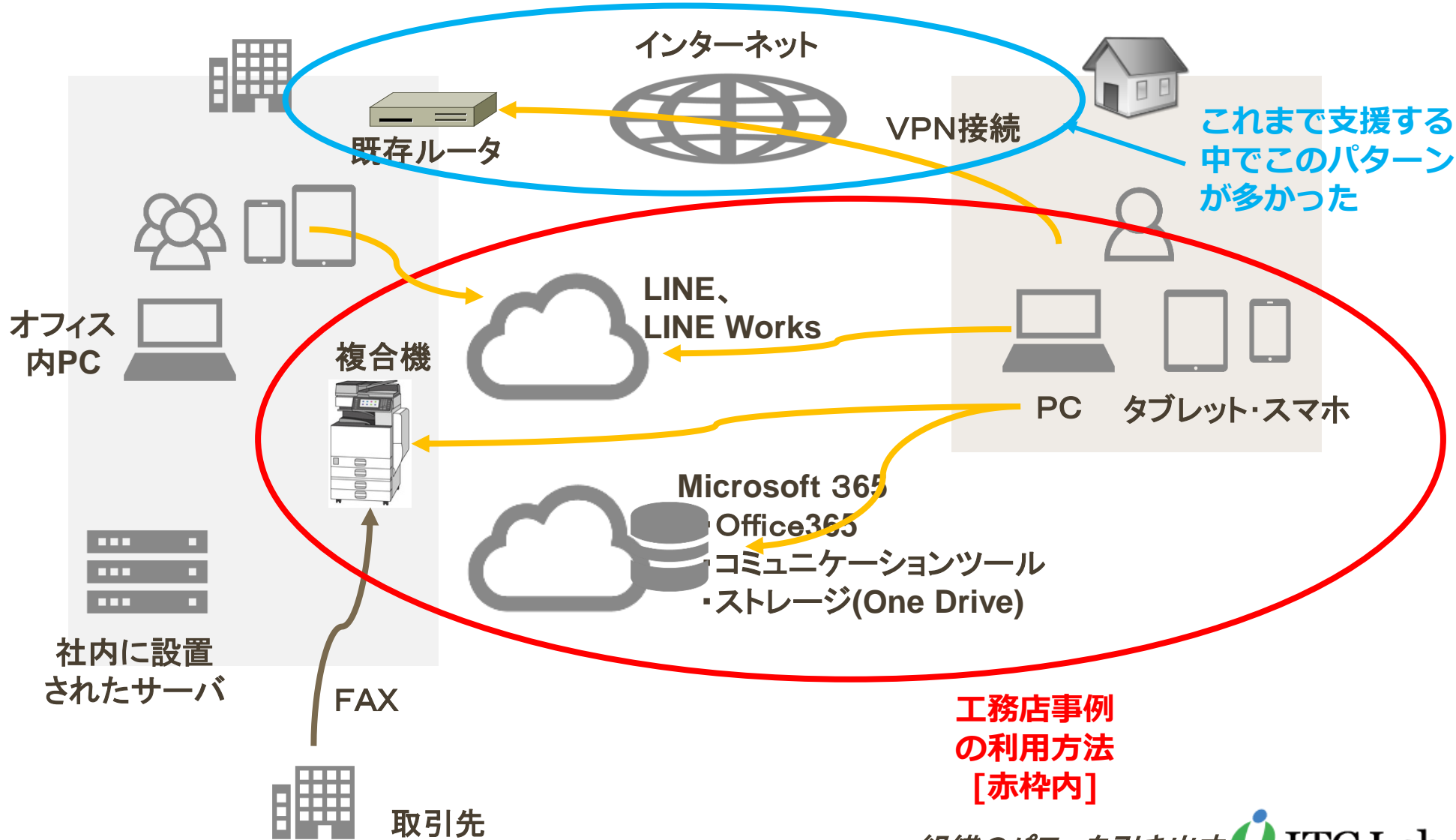


会社パソコン持帰り方式⇒既存環境有効活用方式ともいえる

メリット : 最小限の追加投資でテレワーク整備が可能

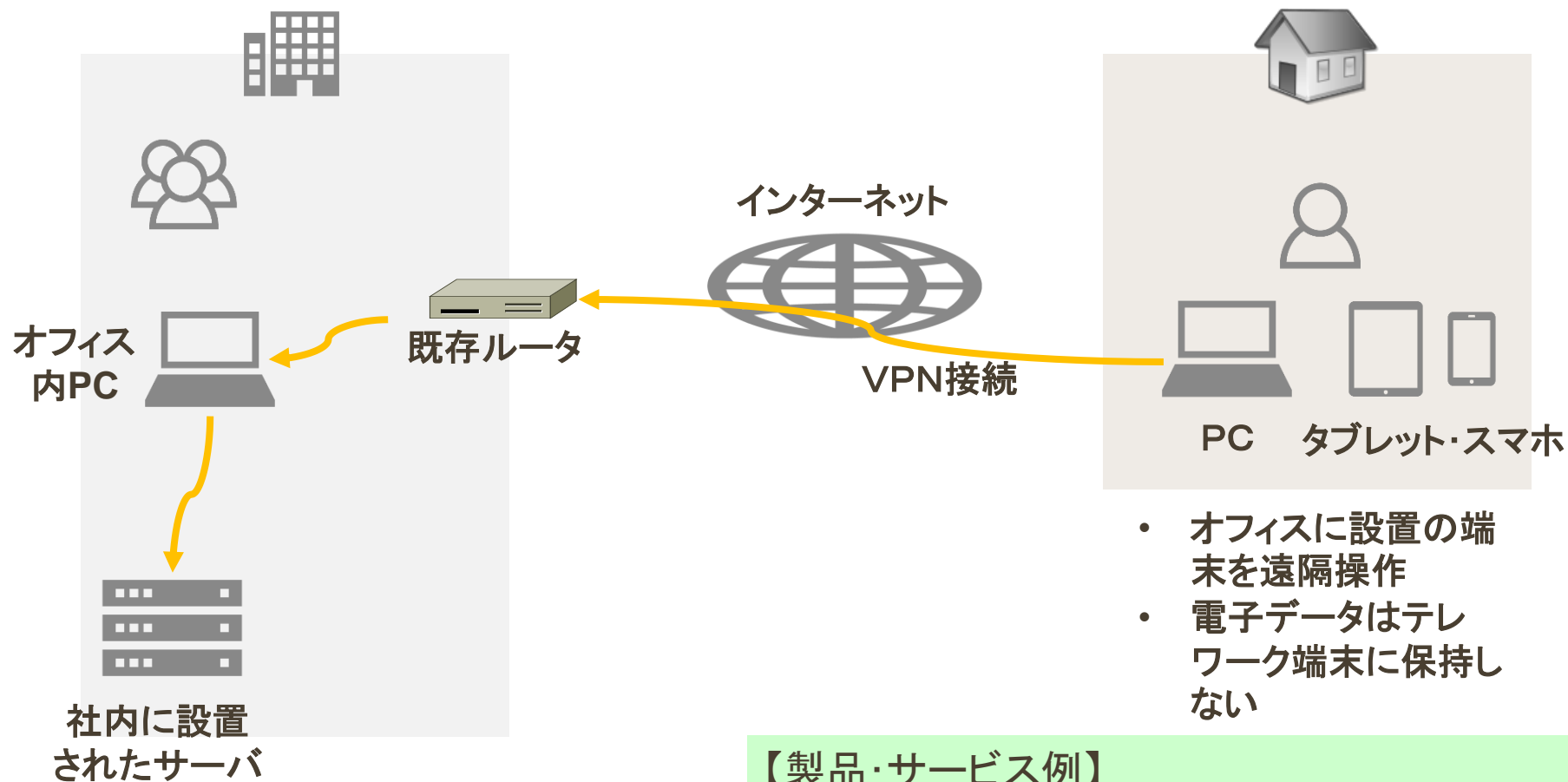
デメリット: テレワーク側の使用状況を管理しづらい(基本的にテレワーカーを信頼する前提)



リモートデスクトップ方式

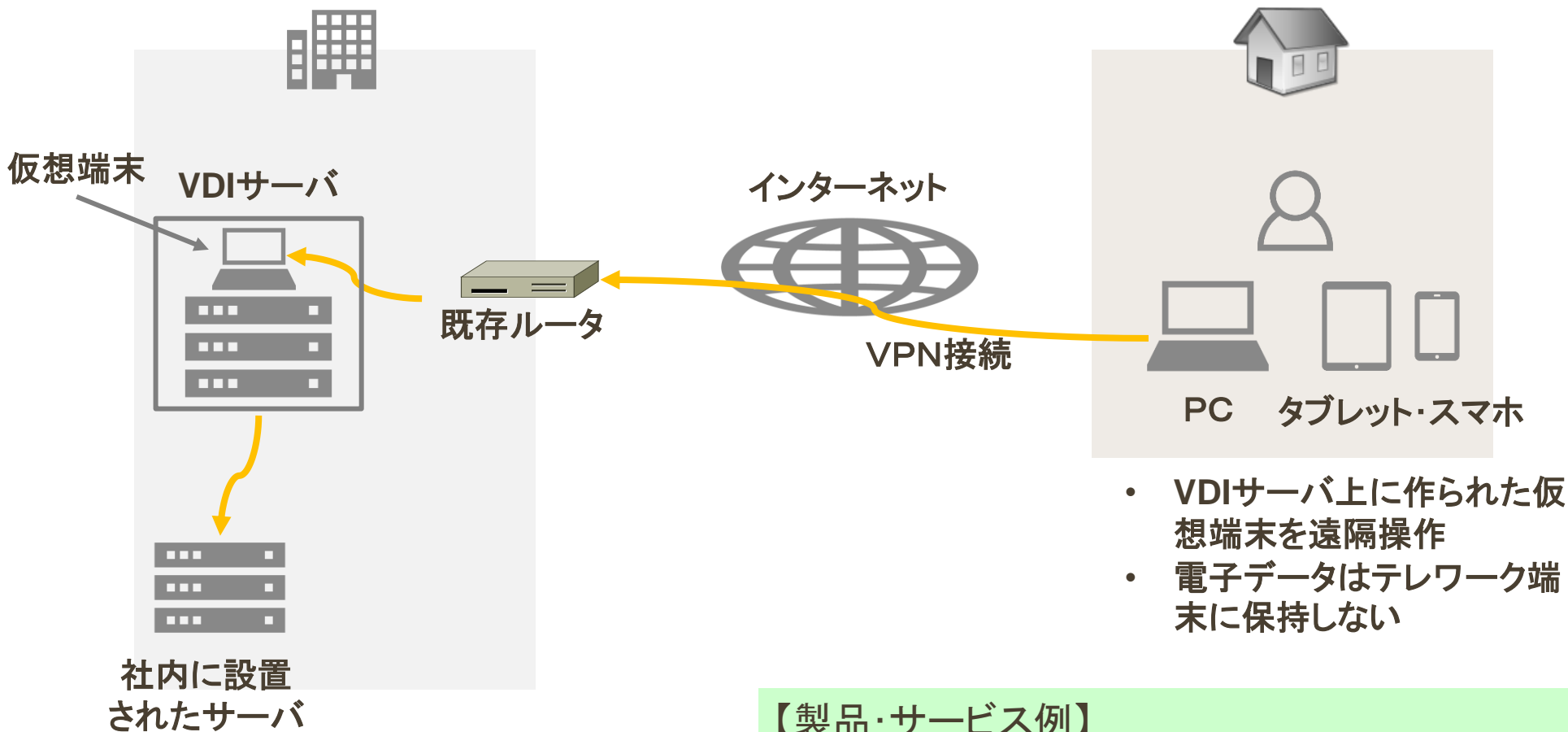
メリット : リモートデスクトップのソフト導入は必要だが、手軽にテレワークを整備可能

デメリット : 遠隔操作するオフィス内PCやインターネット回線が低性能の場合、応答が遅くなる



仮想デスクトップ方式

メリット : VDIサーバにより仮想端末を一括管理⇒や、均質的なセキュリティ対策を実施可能
デメリット: 応答性能の要因はリモートデスクトップと同様、コストやや高め、管理の手間発生



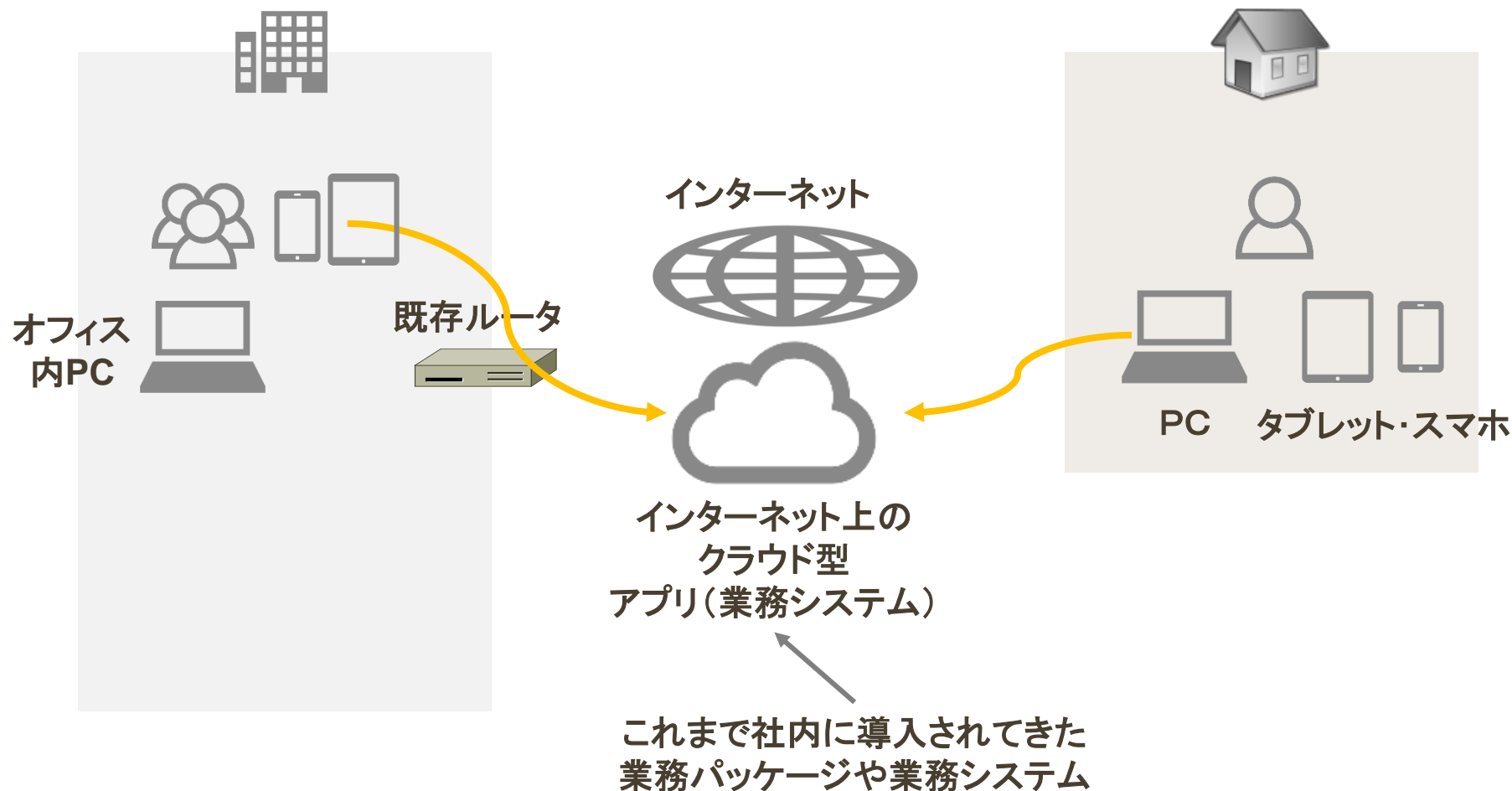
【製品・サービス例】

Vmware Horizon、Amazon Woekspave、Citrix Virtual Apps and Desktop など

クラウドアプリ方式

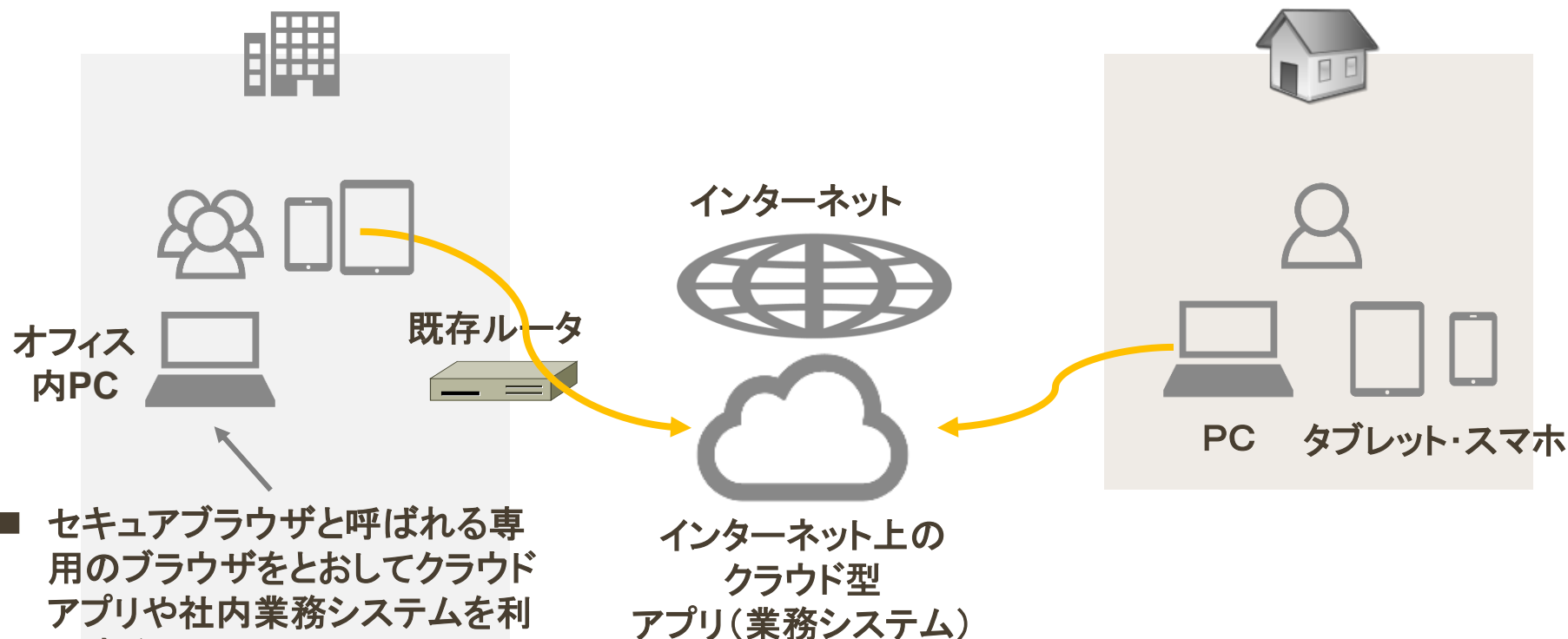
メリット : 場所に左右されることなく業務遂行環境を構築できる

デメリット: テレワーク勤務者がテレワーク端末に業務データを保存可能



セキュアブラウザ方式

メリット :クラウドアプリ方式の安全性を高めている、社内の業務システムも利用可能
デメリット:応答性能の要因はリモートデスクトップと同様



- セキュアブラウザと呼ばれる専用のブラウザをとおしてクラウドアプリや社内業務システムを利用する。
- 電子データの保存、ファイルのダウンロード、印刷などの機能を制限可能

【製品・サービス例】

CACHATTO Desktop、Soliton Secure Browser
など